

cm 展開した後、薄層板を風乾する。これに紫外線（主波長 365 nm）を照射するとき、試料溶液及び標準溶液（1）から得たスポットは青色の蛍光を発生し、それらの R_f 値は等しい。また、紫外線（主波長 254 nm）を照射するとき、試料溶液及び標準溶液（2）から得たスポットは、紫色を呈し、それらの R_f 値は等しい。

貯 法

保存条件 遮光して保存する。

容 器 気密容器。

アセンヤク

Gambir

GAMBIR

阿仙薬

ガンビール

本品は *Uncaria gambir* Roxburgh (*Rubiaceae*) の葉及び若枝から得た乾燥水製エキスである。

性 状 本品は褐色～暗褐色の碎きやすい塊で、内部の色は淡褐色を呈する。

本品はわずかににおいがあり、味は極めて渋く苦い。

確認試験

(1) 本品の粉末 0.2 g に水 10 mL を加え、水浴中で時々振り混ぜながら 5 分間加温した後、ろ過し、冷後、ろ液にゼラチン試液 2～3 滴を加えるとき、液は白濁するか又は白色の沈殿を生じる。

(2) 本品の粉末 0.1 g に希エタノール 20 mL を加え、2 分間振り混ぜた後、ろ過し、ろ液 1 mL に希エタノール 9 mL を加えた液 1 mL にバニリン・塩酸試液 1 mL を加えるとき、液は淡赤色～赤褐色を呈する。

灰 分 6.0 % 以下。

酸不溶性灰分 1.5 % 以下。

エキス含量 希エタノールエキス 70.0 % 以上。

アセンヤク末

Powdered Gambir

GAMBIR PULVERATUM

阿仙薬末

ガンビール末

本品は「アセンヤク」を粉末としたものである。

性 状 本品は赤褐色～暗褐色を呈し、わずかににおいがあり、味は極めて渋く苦い。

本品をオリブ油又は流動パラフィンに浸して鏡検するとき、針状結晶の塊又は黄褐色～赤褐色の有角性の破片からなり、表皮組織及び厚膜化した毛を認める。

確認試験

(1) 本品 0.2 g に水 10 mL を加え、水浴中で時々振り混ぜながら 5 分間加温した後、ろ過し、冷後、ろ液にゼラチン試液 2～3 滴を加えるとき、液は白濁するか又は白色の沈殿を生じる。

(2) 本品 0.1 g に希エタノール 20 mL を加え、2 分間振り混ぜた後、ろ過し、ろ液 1 mL に希エタノール 9 mL を加えた液 1 mL にバニリン・塩酸試液 1 mL を加えると

き、液は淡赤色～赤褐色を呈する。

灰 分 6.0 % 以下。

酸不溶性灰分 1.5 % 以下。

エキス含量 希エタノールエキス 70.0 % 以上。

亜ヒ酸パスタ

Arsenical Paste

本品は定量するとき、三酸化ヒ素 (As_2O_3 : 197.84) 36.0～44.0 % を含む。

製 法

三酸化ヒ素、細末	40 g
塩酸プロカイン、細末	10 g
親水軟膏	30 g
チョウジ油	適量
薬用炭	適量
全 量	100 g

「三酸化ヒ素」及び「塩酸プロカイン」をとり、「親水軟膏」と混和し、「チョウジ油」を加えて適当の稠度とした後、「薬用炭」を加えて着色する。

性 状 本品は灰黒色で、チョウジ油のにおいがある。

確認試験

(1) 本品 0.1 g を小フラスコにとり、発煙硝酸 5 mL 及び硫酸 5 mL を加え、直火で加熱し、反応液が無色となり白煙を生じたとき、冷却し、注意して水 20 mL 中に加え、温時、硫化水素試液 10 mL を加えるとき、黄色の沈殿を生じる（三酸化二ヒ素）。

(2) 本品 0.5 g にジエチルエーテル 25 mL、希塩酸 5 mL 及び水 20 mL を加えてよく振り混ぜた後、水層を分取し、ろ過する。ろ液は芳香族第一アミンの定性反応を呈する（塩酸プロカイン）。

(3) 本品 0.5 g にジエチルエーテル 25 mL 及び水 25 mL を加えてよく振り混ぜた後、水層を分取し、ろ過し、ろ液を試料溶液とする。別に塩酸プロカイン 0.01 g を水 5 mL に溶かし、標準溶液とする。これらの液につき、薄層クロマトグラフ法により試験を行う。試料溶液及び標準溶液 5 μ L ずつを薄層クロマトグラフ用シリカゲル（蛍光剤入り）を用いて調製した薄層板にスポットする。次に酢酸エチル/エタノール (99.5)/アンモニア水 (28) 混液 (50:5:1) を展開溶媒として約 10 cm 展開した後、薄層板を風乾する。これに紫外線（主波長 254 nm）を照射するとき、試料溶液及び標準溶液から得たスポットの R_f 値は等しい。

定 量 法 本品約 0.3 g を精密に量り、150 mL のケルダールフラスコに入れ、発煙硝酸 5 mL 及び硫酸 10 mL を加えてよく混ぜ、注意して初め弱く、後に強く加熱する。赤色の酸化窒素ガスの発生が少なくなったとき、加熱をやめ、冷後、更に発煙硝酸 5 mL を加えて再び加熱し、赤色の酸化窒素ガスの発生がやみ、反応液が澄明になったとき、加熱をやめて放冷する。次にシュウ酸アンモニウム飽和溶液 30 mL を加え、再び加熱して硫酸の白煙が発生してから、更に 10 分間加熱し、シュウ酸を完全に分解する。冷後、あらかじめ水 40 mL を入れた共栓フラスコに無色の反応液を注意して移し、ケルダールフラスコを水 60 mL でよく洗い、洗